

# むきぼんだ花だより 2月

2016. 2. 6

妻木晩田の2月

松本素子

2月は「二八 につばち」と言っ物売れず、商売の振るわない月とされる。妻木晩田の2月も花もない、実もない、何も無い季節、と当初は思っていた。ところが、ぼんやりではあっても10年も歩いていると、2月は何も無い、のではなく、あることに気がつかなくなっただけ、ということがわかってきた。徒然草に「花は盛り、月は隈なきをのみ見るものかは」とあるように、花もない実もない2月でも見どころはあるのだ。

花もない、実もない裸木を見上げては、あれっ、この木何の木？、と。春や夏なら名前がわかるはずの木の名前がわからなくて愕然とする。愕然は一瞬のことで、まあ春になったらわかるだろうと素通りしかけると、後ろで「がりん(茅鱗)だの「らが(裸芽)」だのと耳に入ってくる。冬芽がそれぞれ違う特徴を持っていることがわかるのがこの季節である。当初鷲見先生が「冬芽を見てください」と言われたのはこのことか、とようやくわかる。

冬芽を尻ろと言われても、ただ眺めていただけだった。落語にもそういう話があった。



コナラの幹



足元には芹が短い丈で出ている。毎年1月の例会はちよど七草粥の前後で、歩きながら七草の話が出る。今年も「七草を探しに出かけたけど揃わなかった」と誰かが言っていた。「七草に足らざる粥をすりけり」という俳句を見かけたりする。元々元旦も7日も旧暦のことであるから1月に見つけられなくても不思議ではない、と気がついたのは何年か歩いた後のことである。

今年の旧の元旦は2月8日、1月7日は2月14日であったから、その頃になると妻木晩田でも寸足らずではあるがセリやハコベラ、ゴギョウを見つげることができる。今ほとんどこも開発されて野原が少なくなっているが、昔ならこの時期でも丈は短くても粥で食べるくらいは十分に取れただろうと推測する。



セリ (2009年3月)



ハコベ (ヒヨコブサ) (2009年3月)



ゴギョウ (ハハコブサ) (2009年3月)

アオモジやコブシのつぼみがふくらむのも2月、さてこのつぼみふくらみの遅速が二つの花が運動しているのかわからないのか、未だによくわからない。今年コブシのふくらみが早い、と思ってもアオモジはまだ固いつぼみだったり、その逆だったり、のような気がする。ぼんやり眺めているので判別できていないことがわかってきた。何を知らないかわかってくるのも歩き続けることの効用である。



アオモジ (2015年2月)



コブシ (2015年2月)

コブシ

葉も花も実もない幹と枝だけで木が判別できるようになる日が来るのやら来ないのやら、運けき望みかなあ、と思いつつ次回もぼんやり歩くのである。

万葉集に出てくる芹

ますらお たち は たい 丈夫と思へるものを大刀佩きてかにはの田居に芹子そ摘みける  
せちよつかんのみよぶ 薛妙 観 命 婦

芹も万葉時代の大切な食べ物だったそう。 2/4



植物の

# 幹



キナナ



イヌシテ



ヤマザシラ



ネンキ



クロキの芽



クロキ



スダジイ



## 明るく、楽しく 歩く会新年会

### ★むきばんだを歩く会★

- 指導： 鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ： むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」